

2019 ADAC TOTAL 24h-Rennen



東 徹次郎
TOHJIRO AZUMA

上位走行中に超高速区間で不運なアクシデント発生！！

‘絶対に完走’の心で復活、チーム全員で得た3位！！

- ・開催サーキット：ニュルブルクリンク（25.387km）
- ・レース時間：24 時間
- ・チーム：Ring Racing with Novel Racing
- ・マシン：LEXUS RCF
- ・カーナンバー：＃20
- ・クラス：SP8
- ・ドライバー：Tohjiro Azuma Yoshinobu Koyama
Taketoshi Matsui Kota Sasaki



◆予選 1（6 月 20 日）

最初の予選はナイトセッションの予選です。

とはいえ、昨年より 1 ヶ月遅い開催ということで、22 時くらいまで明るいこの時期のドイツ。

自分は 4 番目に乗る予定なので、ちょうど自分の出番で暗くなる時間帯でした。

日中に行われたフリープラクティスは開始早々に豪雨に見舞われて走行せずに終わった為、事実上この予選が最初の走行となりました。

予選開始時はまだ日中の雨の影響が残っていてハーフウェットという難しいコンディションの中始まります。

どんどんコースコンディションが良くなっていき、自分のときにはほぼドライでした。

しかしもう暗くなっていたので、自分にとっては最初の走行ということもあり、かなり慎重に行きました。

計測 2 周だったのですがコースとマシンの感触を確認し、夜間時のフラッグやシグナルの確認を自分の中では重視してこの予選には臨みました。

無事に 4 人全員が周回をクリアし、翌日の日中の予選に臨むこととなります。

予選結果：クラス 3 位（総合 66 位）



◆予選 2 (6 月 21 日)

二日目の予選は日中の予選となり、ドライコンディションで迎えることが出来ました。

前日の予選は今回初走行だったこともあり攻めるほどペースを上げていなかったなので、この予選では自分のギアも一段上げ、しっかりと攻める気持ちで行きました。

この予選は予選時間の関係上、計測 1 周のみの走行となります。
視界も明るく良好なので最初から攻めていけましたが、自分の走行の際にはトラブル車両がいたために速度規制区間が出てしまい、タイムを出すことは出来ませんでした。

チームメイトは速度規制には引っかからなかったなので、そのタイムが我々のベストタイムとなります。

結果、前日同様にクラス 3 位で予選を終えることとなりました。

去年の自分たちの予選タイムと比較すると 50 秒くらい速いので、確かな手応えと自信を持って、決勝を迎えることが出来ます。

予選結果：クラス 3 位 (総合 61 位)

(予選タイム：9'09.130)



◆決勝（6月22&23日）

今年も160台ものマシンが集まったニュルブルクリンク24時間レース。
我々のクラスは、ポルシェ、アウディーR8、アストンマーチン、マスタングと
いった車両がライバルとなります。

決勝は佐々木選手がスタートを担当し、小山選手、松井選手、そして自分の
順番です。

少し暑くも感じるような天候の中、15時30分にいよいよ24時間レースがス
タートします。

佐々木選手はオープニングラップで早くもポジションを一つ上げ、クラス2位
で走行していきます。

トップのポルシェだけがアベレージで10秒くらい速いのですが、2位以降はほ
ぼ同じようなラップタイムを刻んでいました。

次の小山選手、そして松井選手も佐々木選手と同じようなペースの9分20秒
台から30秒台で安定して走行を続け、19時15分頃に自分の最初のスティン
トが回ってきました。

まだまだ明るいこの時間、西日が眩しくも感じるくらいでした。

1スティント9週の予定です。

交代して2周はコース上にクラッシュ車両の回収などが入っていて速度規制の
区間が多い為、10分台での走行となります。

そしてコースの規制が無くなると自分も9分20秒台で安定していてクラス2
位をキープしていました。

決勝で初めて連続2周以上走りましたが、思いのほかタイヤのパフォーマンス
ダウンが激しい為、途中から特にフロントタイヤを労わるような走り方に切り
替えました。

順調かと思っていた矢先、悪夢が待っていました。

約1時間が経過し、5周目を走行していたときです。

ニュルブルクリンクのこのコースで最高速を記録するドッティンガーストレ
ートエンド、最終セクションに向けてフルスロットルで左に少し曲がるので
すが、ステアリングを切った直後右リアタイヤがバーストし、270km/hでマシン
がバランスを失います。

全開のまま突然マシンが左真横に向いたので、咄嗟に右にカウンターステアを
当てますが、真横に向いたまま超高速で滑走して目の前にはガードレールが近
くなるのがわかりました。

この速度のままイン側に当たったらマシンも自分の体も確実に大きなダメージ

を負ってしまうという恐怖と闘いながら、フルカウンターで何とかインサイドだけには行かないようコントロールしていたつもりです。

すると今度はマシンがいきなりカウンターを当てていた右に大きくシャンクして逆向きになりました。

直ぐに左にカウンターステアを当てますが、今度はアウト側のガードレールが目の前に迫ってきます。

自分も必死にコントロール不能状態のマシンを最後までコントロールしていましたが、遂にフロント部分がガードレールにヒットし、その反動で後ろ向きになり、ようやくマシンが芝生の上で止まりました。

バーストから止まるまで約 12 秒でしたが、本当に長く感じた 12 秒でした。

ただ、非常に幸運だったのは当たったのはフロントだけで、しかも横滑りしながらかすめるように当たったので、直接前から当たるよりダメージが少ないこと、かなり滑ってから当たったので速度も 100km/h まで落ちていたこと、そしてコース上ではなくコース外で止まったので他車との接触も無く、何より自分の体が無傷だったことです。

当然マシンがピットまで走って戻ることは不可能だったので、マシンを降り、自分は念の為にメディカルセンターへ運ばれました。

右リアタイヤバーストの原因ですが、おそらくこの周の山側区間でクラッシュ直後の車両があり、部品が散乱していたのですが、気を付けて部品を踏まないようにしていたつもりですし踏んだ感触も無かったのですが、小さい破片でタイヤにダメージが加わり、高速域でタイヤがバーストしたのではないかと思います。

マシンのダメージはあの速度でクラッシュした割には奇跡的な軽傷ですが、それでもダメージはけっこうあり、ラジエーターなどのフロント回りの交換や足回りを含めた全てのチェックなどで、6 時間から 7 時間程ストップしていました。

それでもメカニックたちの懸命な作業のお陰で、日が昇る前にコースに復帰することが出来ました。

ここからはまた佐々木選手からローテーションで走行していきます。マシンも問題無いようで、ペースもクラッシュ前と変わらないものでした。復活して自分の最初のスティントは朝日がまだまだ眩しくて、気を遣いました。

ただ、このスティント中に自己ベストの 9 分 16 秒台も記録します。

決勝はとにかくマシンを労わるためにも縁石を使わないで走行するというのを徹底していました。

また、タイヤマネジメントも意識して特にフロントタイヤを酷使しないよう

努めました。

最後のスティントはお昼頃です。

このとき、ライバル勢もリタイアしていたので、復活して順調に走行を続けていた我々はクラス3位まで戻っていました。

トップ2台とは大きな差があり、残りも3時間程だったので、チームからの指示でこのスティントから少しペースを落とし、更にマシンを労わる走りに。

そして松井選手へバトンを繋ぎ、最後に小山選手が担当して、24時間をクラス3位で完走することが出来ました。

決勝結果：クラス3位（総合112位）





◆反省

2回目のニュルブルクリンク 24時間レースということで、昨年よりも余裕を持って迎えることが出来ました。

予選ではニュルブルクリンクらしい速度規制の区間に多く引っかかってしまい、ちゃんとした計測タイムを出すことが出来ませんでした。決勝のタイムを見ても非常に良いペースで走れていたと感じます。

今回は 270km/h からのバーストという経験もしましたが、コントロール不能状態に陥ったマシンを最後までコントロールしていたつもりですし、何より本当に運も良く、怪我無く終われたことは良かったです。

改めてクラッシュ車両の散らばったカーボンパーツの怖さを再認識しましたし、気を付けていたつもりですが、今回に関してはアンラッキーでした。

4人共ペースが揃っていて、今年はマシンの戦闘力も上がってレースラップとしても戦えていたので悔しいですが、また来年も挑戦出来るように頑張りたいと思います。



◆最後に

今回も大変多くのご支援ご声援、本当に有難うございました。
クラス優勝を明確に狙って臨んだ今回のレース、序盤からクラス 2 位を走行していただけたに、アクシデントが非常に悔しいですが、そこからのマシン復旧を夜通し全力でやってくれたメカニック、チームスタッフに本当に感謝です。
完走だけでも大変なこのレースで、アクシデントを乗り越えて 2 年連続の 3 位、改めて素晴らしいチームだと感じました。

J SPORTS さんの取材や、現地メディアからのインタビューなどもあり、昨年よりも注目されていることを実感しました。

自分自身、このニュルブルクリンクでの経験は精神的にもドライビングの面でも成長出来ると感じています。

270km/h からのバーストはこれまでの人生の中で最も危険な状態であり、いろいろ覚悟をした瞬間でもありました。

その中で最後まで自分なりにコントロールして被害を最小限に留められたことは自分の持っている運というものも少なからず感じました。

また、クラッシュ後の最初の周もアクセルを戻すことなく同じように全開で走ることが出来たので、レーシングドライバーとしての自信を持つことが出来ました。

国内のどこのサーキットよりもスリリングであり、自分を試し、成長させる事の出来るこのニュルブルクリンク 24 時間に、是非来年も挑戦したいと思います。

これからも日々目標を持ち全力で頑張っていきますので、どうぞ今後とも御支援御声援の程、宜しくお願い致します。

2019 年 6 月 28 日

東 徹次郎

